



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 288

2024.9▶10

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2024年9月1日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団



吟遊詩人の世界

みんぱく創設50周年記念特別展

世界を異化する吟遊詩人

吟遊詩人というと、中世ヨーロッパにおいて存在した宮廷楽師や大道芸人を指すことが多いのですが、アジアやアフリカにおいても脈々と生きてきました。吟遊詩人は、ときには畏怖の対象とされ、ときには社会の縁においてやられてきましたが、近年はポピュラー音楽界や消費社会、文化遺産保護とのつながりのなかで、芸能の様式や自身のイメージを変え生き延びてきました。

本特別展では、吟遊詩人のパフォーマンスやそれら成り立たせる物質文化を紹介するとともに、彼ら、彼女らをはぐくんできた地域の人びとの息吹を伝えます。

みんぱく創設50周年記念特別展

吟遊詩人の世界

まもなく開幕!

会期 2024年9月19日(木)〜12月10日(火)
会場 国立民族学博物館 特別展示館

展示の見どころご紹介!

▶▶▶特別展の関連企画として、第553回と第554回友の会講演会を開催します!!
詳細につきましては本紙5ページをご覧ください。

アジア・アフリカの詩吟詩人の世界

エチオピア高原の吟遊詩人、タール沙漠の芸能世界、ベンガルの吟遊行者と絵語りなど、これらの吟遊詩人を育む地域社会に身を置き、長い年月をかけてフィールドワークをおこなってきた8名の研究者たちが特別展の展示構成に関わっています。研究者の着眼点やスタイルが展示に反映されています。

特別展示場がライブハウスに!?

展示場にアリーナスペースを設け、警女、ラッパー、グリオ等をはじめ様々な吟遊詩人のパフォーマンスがおこなわれます。さらに、地域やパフォーマンスの様式を超越した、吟遊詩人同士によるジャムセッションも企画されています。

あなたも吟遊詩人

来館者がカードあそびをとおして、日本語の韻の初歩を理解したり、詩作に取り組んだりできる体験スペースを設けます。監修者(本展に関わる研究者、吟遊詩人)の目にとまれば「今週の一首」として選ばれソーシャルメディアをとおして紹介されます。

研究者のまなざし

研究者・フィールドワーカーは対象の人びとを観察する側であると同時に、それらの人びとから観察される側でもあります。研究者はどのようなアプローチで吟遊詩人の世界とつながり、対象をまなざし、また逆にまなざしを投げかけられてきたのかを、写真、動画、イラスト等をとおして省察的に示します。

特別展図録 9月中旬発行予定

吟遊詩人の世界

各地を広範囲に移動し、詩歌の歌い語りを通して世界を異化する吟遊詩人たちを豊富な図版とともに紹介します。

エチオピア高原の吟遊詩人 | タール沙漠の芸能世界 | ベンガルの吟遊行者と絵語り | ネパールの旅する楽師
警女—見えない世界からのメッセージ | うたが生まれる心の小道 | モンゴル高原、韻踏む詩人たちの系譜
マリ帝国の歴史を伝える語り部

川瀬 慈 編集
国立民族学博物館 監修
河出書房新社 発行

本文200頁
B5変形判

友の会会員価格 2,821円(税込)
定価 2,970円(税込)

館内ミュージアム・ショップのほか一般書店でもご注文いただけます。(会員割引は館内ショップのみ!)



【募集】第95回民族学研修の旅

アルテ・ポプラル

—メキシコの民衆芸術を訪ねる

同行講師：鈴木 紀(民博教授)

旅行期間：2025年2月17日(月)～25日(火)【9日間】

申込締切：2024年12月25日(水)

友の会会員(*維持会員・正会員・家族会員)は2024年9月3日(火)、それ以外の方は、9月10日(火)より受付開始。

参加費：724,000円

(行程中の移動費、食費、宿泊費【相部屋】、見学費を含む)

募集人数：25名(最少催行人数15名)〈先着順〉

*上記会員以外の方は、該当の会員もしくは体験会員(4,000円)にご登録ください。

「民族学研修の旅」いよいよ再開します!



ノアの方舟を描いた「生命の木」が置かれたメヒコ州メテベックの民芸品市場 撮影・鈴木 紀



オアハカ州アラソラ村のヒメネス家の私設博物館に飾られたコーナーに変身したナワル(シャーマン)の木彫 撮影・鈴木 紀



アラソラ村のヒメネス家の私設博物館 撮影・鈴木 紀

あふれる色とはじける形! ラテンアメリカでは、民衆のつくる洗練された手工芸品を「アルテ・ポプラル(民衆芸術)」とよびます。民衆芸術には、生活用品から土産物、コレクター向けの高級品まで多様な作品が含まれます。表現手段も、陶器や木彫り、絵画や版画、織物、雑貨に至るまでさまざまです。ラテンアメリカの民衆芸術は、どうして多様なのでしょうか。その答えは、ラテンアメリカの人びとがたどってきた歴史のなかに見つけることができます。五年ぶりに再開する民族学研修の旅では、「民衆芸術」をテーマに、メキシコを訪ねます。二〇二三年春に開催したみんぱくの特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」のエッセンスを現地体験するのが今回の企画のねらいです。民衆芸術をとおして、ラテンアメリカの歴史の多層性と文化の多重性を体感しましょう。

民衆芸術には、さまざまな解釈が存在するといわれています。この旅では、特別展で着目した三つのキーワードをもとに、現地を訪ねます。ひとつめが、諸文化が生み出した造形表現です。先コロナブス期の石彫や、植民地時代に発達したス

ペイン風の陶器など、各時代の文化にちなむ工芸品が見られます。ふたつめが、「国民の芸術」として振興された表現です。二〇世紀前半、メキシコでは、政府が国民文化を高揚する手段として手工芸品に着目し、「民衆芸術」と名付けました。その結果、各地に名工が輩出し、秀作を残しました。複雑な陶器のオブジェ「生命の木」やカラフルで空想的な動物木彫りなどメキシコを代表する民衆芸術は、こうして誕生しました。

三つめが、市民による批判精神としての表現です。二〇世紀後半のラテンアメリカでは、民主化や人権尊重を訴える市民運動が活発化します。メキシコ南部のオアハカ市では、若手の芸術家たちがこうした運動を継承し、政治的メッセージをストリートアートの形で表現しています。

これらの要素が、現在も継続し、ともに存在していることが、ラテンアメリカの民衆芸術の多様性を生み出しているのです。

旅では、民衆芸術の生産地やみんぱくの所蔵資料を制作した工房などを訪ねます。みんぱく馴染みの作家がつくった木彫りに色を塗るワークショップにも挑戦します。街歩きをしながら公共空間に描かれた絵画や版画作品を見学するほか、遺跡や教会、ローカルな市場にも足を運びます。

「メキシコのいま」をつくる人びとの経験や営みにふれるとともに、その地で生み出された豊かな造形表現を楽しみましょう。ぜひ、ご参加ください。

……旅の参考に……

『季刊民族学』でも、ラテンアメリカの民衆芸術を紹介しています!

126号

メキシコの夢 —マヌエル・ヒメネスとゆかいな木彫りたち

動物木彫り誕生の立役者・マヌエル・ヒメネスの生涯とともに、制作の軌跡と当時の社会背景について紹介。旅ではヒメネス家の工房を訪ねます。

170号

アルテ・ポプラル —メキシコの造形表現のいま

特別展の前身となった企画展「アルテ・ポプラル —メキシコの造形表現のいま」の関連記事。「生命の木」などの民衆芸術作品を紹介。

特別展の図録も参考に!
(残念ながら完売しました。
図書室等でご覧ください)



詳細・受付フォーム



<https://www.senri-f.or.jp/95travel/>

みんぱく友の会のホームページ内にあります。訪問先等詳細は、第95回民族学研修の旅のフライヤーをご参照ください。

企画展も
はじまります！



みんぱく創設50周年記念企画展

客家と日本

— 華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史

会期：2024年9月5日(木)～12月3日(火)

会場：本館企画展示場

華僑華人の一派に客家(はっか)と呼ばれる人びとがいます。客家は、世界各地に居住し、政治・経済・文化など各方面で成功を収めてきたため、中国地域では「東洋のユダヤ人」と呼ばれることもあります。19世紀後半以降、客家は日本と密接な関係を築きあげてきました。特に1895年に日本が台湾を植民地とすると、台湾の客家にとって日本は身近な存在になります。また、一部の客家は台湾などから日本へ移住し、団体をつくり、暮らしています。客家と日本の関係に焦点を当てることで、これまであまり知られることのなかった東アジア関係史の一面を探ります。

関連イベント 台湾客家と日本—20世紀前半を中心に

友の会講演会 日時:9月7日(土)/第5セミナー室

【大阪】

講師:河合 洋尚(東京都立大学准教授) ※会員はオンライン配信あり!(事前申込制)

9月中旬発売! 2025年 国立民族学博物館オリジナルカレンダー

民具—暮らしをささえる道具たち

2025年の国立民族学博物館オリジナルカレンダーは、渋沢敬三が創設したアチック・ミュージアムのコレクションのなかから、人びとの日常の暮らしに欠かせない民具を掲載しました。長い間使用されるに適した、理にかなった美しさが宿っているモノの魅力を一年を通してお楽しみください。

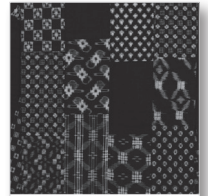
友の会会員価格 1,287円(税込)

25cm×25cm
(開くと縦50cm×横25cm)
オールカラー/28頁/中綴じ/月曜はじまり

定価 1,430円(税込)
5冊以上おまとめ購入 1冊1,144円(税込)
通信販売の場合、別途発送手数料が必要です。

お問い合わせ

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ(水曜日定休)
e-mail: shop@senri-f.or.jp
オンラインショップ「World Wide Bazaar」
<https://www.senri-f.or.jp/shop/>



今年も開催! 日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2024

協働・共創の万博をめざして

日時: 2024年10月26日(土)13:30~16:30(開場13:00)

会場: 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)

登壇者: 中島 さち子(株式会社steAm代表取締役、大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー)

堂目 卓生(大阪大学総長補佐、社会ソリューションイニシアティブ長)

佐野 真由子(京都大学大学院教授)

吉田 憲司(国立民族学博物館長)

2025年大阪・関西万博開幕を半年後にひかえての開催になる本シンポジウムでは、過去3回のシンポジウムの成果が実際の万博にどうかされつつあるのか、万博にかかわる方がたから具体的にご報告いただきます。パネルディスカッションでは、2025年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を中心にとりあげ、「共創」、「SDGs」、「コミュニティ」、「教育」、「多文化共生」、「情報化」、「2025レガシー」、万博コンセプト「People's Living Lab - 未来社会の実験場」などをキーワードに、万博のあり方について討論します。

- 参加費無料
- 定員350名、要事前申込(先着順)
- オンライン(ライブ配信)あり。

当日、千里文化財団HP内の催し詳細ページ(右記)より無料でご視聴いただけます。

受付期間 ▶2024年9月9日(月)~10月18日(金)

催しの詳細・受付フォーム

https://www.senri-f.or.jp/expo_symposium2024/



日本万国博覧会記念公園シンポジウム2024

協働・共創の万博をめざして



2024
10/26
(土) 13:30~16:30(開場13:00)

会場 国立民族学博物館
みんぱくインテリジェントホール(講堂)

定員 350名(先着順)

受付 無料

申込方法(先着順) 要事前申込

申込受付期間 2024年9月9日(月)~10月18日(金)

オンライン(ライブ配信)は、
国立民族学博物館のウェブサイトよりご覧いただけます。

お問い合わせ先
https://www.senri-f.or.jp/expo_symposium2024/

シンポジウム
シンポジウムの開催にあたって「協働・共創の万博をめざして」
本シンポジウムは、国立民族学博物館と株式会社steAmが協働で開催する「協働・共創の万博をめざして」の一環として開催いたします。
登壇者: 中島 さち子(株式会社steAm代表取締役、大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー)、堂目 卓生(大阪大学総長補佐、社会ソリューションイニシアティブ長)、佐野 真由子(京都大学大学院教授)、吉田 憲司(国立民族学博物館長)

本シンポジウムは、国立民族学博物館と株式会社steAmが協働で開催する「協働・共創の万博をめざして」の一環として開催いたします。本シンポジウムは、国立民族学博物館と株式会社steAmが協働で開催する「協働・共創の万博をめざして」の一環として開催いたします。

巡回展のご案内

北海道



驚異と怪異 ——想像界の生きものたち

会期：2024年9月14日(土)～11月17日(日)
会場：国立アイヌ民族博物館

人類は、常識や慣習から逸脱した「異」なるものを、どのように認識し、説明し、描いてきたのでしょうか。奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合！

福岡



ユニバーサル・ミュージアム ——さわる!“触”の大博覧会

直方巡回展2024
会期：2024年9月16日(月・祝)まで
会場：直方谷尾美術館

2021年秋にみんぱくでおこなわれた特別展の2回目の巡回展を福岡県直方市で開催しています。展覧会を通して「さわる」ことの無限の可能性を発信します。

利用料金や開館時間など、詳細は各館のホームページ、もしくはみんぱくホームページより情報をご確認ください。



みんぱくの巡回展の情報はこちら！
<https://www.minpaku.ac.jp/exhibition/traveling>

催しのご案内 友の会会員限定企画です！

中牧理事長の オンラインサロン

恒例の会員交流企画「理事長サロン」。千里文化財団の理事長であり、みんぱく名誉教授でもある中牧弘允先生と気軽に会話を楽しみましょう。今年、みんぱくは創設50周年を迎えました。今回は創設当初から準備にたずさわってこられた、名誉教授の藤井龍彦先生をゲストに迎える特別企画！名誉教授の久保正敏先生も交え、熱量あふれる当時のみんぱくを振り返ります。今回はオンラインでの開催です。みなさま、ぜひご参加ください。



中牧理事長

日時 11月9日(土) 13:30～15:00

事前申込制。11月5日(火)までにお申し込みください。
※お申し込みいただいた方には、後日詳しい参加方法のご案内を差し上げます。

催しの詳細・受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/rijichosalon006/>



藤井龍彦名誉教授のインタビュー映像をご覧ください▶▶▶

「時代の証言」
(みんぱく創設50周年記念サイト内)

<https://www.r.minpaku.ac.jp/anniversary/syogen.html/>



みんぱく友の会へのご登録は書店でもお手続きいただけます！

友の会へのご入会・ご継続のお手続きは、下記店舗でも承っております。書店にお立ちよりの際はぜひご利用ください。

ジュンク堂書店：池袋本店・大阪本店・三宮店・名古屋店
※三省堂書店神保町店は本社ビルの建て替えに伴い、当面の間、受付対応を休止しております。

東京講演会 実施報告

■第136回■2024年3月23日(土) 会場：モンベル御徒町店

——モンゴルの輪廻転生を信じるということ——

島村 一平 (民博教授)

三月三日(土)モンベル御徒町店で第一三六回東京講演会を開催いたしました。本講演会では民博教授の島村一平先生に、モンゴルの人びとが死の悲しみを新たな生の喜びへと転換していく姿を、輪廻転生に関する普通の人びとの語りを通じて紹介いただきました。

に幅がある点を指摘されました。おわりに、モンゴルの人びとは一〇〇パーセント生まれ変わりを信じているわけではなく、あるのは「願い」「希望的な信念」であり、親しい人を亡くしたとき、生まれ変わってほしいという願いが、生まれ変わりの習慣を維持させているというところを、グリーンフェアの観点から日本との比較をまじえて解説いただきました。参加者からは多くの質問が寄せられ盛会のうちに講演会は閉会となりました。(文・事務局)

つぎに、生まれ変わりを巡る「幼い子どもを亡くした哀しみ」、「生前を記憶する子どもたち」、「不慮の死」といった人びとの語りを概観し、さらには生前にも生まれ変わりは生じるという驚きの現象!?について、「スンス・ザイハラ(魂が去ってしまった)」というモンゴル・シャーマニズムの概念とともに紹介いただきました。各エピソードを通じて、モンゴルの人びとの「生まれ変わり」の解釈は一樣でなく、個人の自由度



草原のソビラガ(仏塔)
モンゴル国ウブスハンガイ県、2016年、撮影・島村一平

館内催し 会員先行予約

該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。催しの詳細、その他催しに関する情報は、みんぱくホームページや『月刊みんぱく』をご確認ください。

みんぱく催し

<https://www.minpaku.ac.jp/event/>



みんぱくゼミナール

第550回

客家民居と日本

10月19日(土)13:30~15:00(開場13:00)

講師:河合洋尚(東京都立大学准教授)、

小林宏至(山口大学准教授)、奈良雅史(民博准教授)

友の会先行受付:9月13日(金)~20日(金) 定員80名

第551回

サトイモを探り、世界を識る。

11月16日(土)13:30~15:00(開場13:00)

講師:ピーターJ・マシウス(民博教授)

友の会先行受付:10月11日(金)~18日(金) 定員80名

みんぱく映画会

世界の感触を取り戻せ!

——目の見えない者は、目に見えない物を知っている

10月13日(日)13:00~16:20(開場12:30)

演奏:萱森直子(聾女唄演奏者)

解説:斎藤弘美(「聾女ミュージアム高田」顧問)

司会:広瀬浩二郎(民博教授)

友の会先行受付:9月2日(月)~6日(金) 定員70名

映像人類学フォーラム「吟遊詩人をめぐる映像民族誌の

視点——エチオピアとネパールの比較から」

10月26日(土)13:00~17:00(開場12:30)

解説:川瀬慈(民博教授)、南真木人(民博教授)

司会:川瀬慈

※第7セミナー室での開催となります(定員30名)。

友の会先行受付:9月13日(金)~20日(金) 定員6名

音楽ドキュメンタリー「The Path——バルパティ・

ハウル 風狂の歌ぞえ」

11月23日(土・祝)13:30~15:30(開場13:00)

解説:阿部櫻子(監督)

司会:岡田恵美(民博准教授)

友の会先行受付:10月11日(金)~18日(金) 定員70名

申込先着順/本人を含む2名まで

みんぱく友の会事務局(千里文化財団内)

電話 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

■大阪

・会場、オンライン配信(ライブ配信)ともに事前申込先着順です。

・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。

11月の友の会講演会は、友の会会員の方も、会場・オンライン配信ともに事前申込制となります。

■東京

・事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。(参加費500円)

大阪

第553回

【みんぱく創設50周年記念特別展「吟遊詩人の世界」関連】

絵語りポトウアの歌世界

講師:岡田 恵美(民博准教授)

日時:10月5日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法:①第5セミナー室での参加(定員70名) ②オンライン配信での参加

インド・西ベンガル州の田園地帯にある、ノヤ村。そこには絵語りを生業としてきたポトウアが250人ほど暮らしています。ポトウアはイスラム教徒でありながら、ヒンドゥー神話や地母神の物語を自らが描いた巻絵「ポト絵」を使って歌で紡ぎ、かつては近隣のヒンドゥー教徒の村々を巡りました。その時々々の社会問題もポト絵に取り入れ、巧みに生きてきたポトウアの暮らしと歌世界を映像を用いて紹介します。

※終了後、展示の見学会をおこないます(要会員証もしくは特別展示観覧券)。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/553tomo/>

第554回

※会場・オンライン配信ともに、友の会会員の方も事前申込制となります。

【みんぱく創設50周年記念特別展「吟遊詩人の世界」関連】

世界を席卷するRAPの魅力

——あなたもわたしも吟遊詩人

講師:矢野原 佑史(京都大学特任研究員)

日時:11月2日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法:①第5セミナー室での参加(定員40名) ②オンライン配信での参加

本講演では、まず現在日本でも流行中のラップ(RAP)について解説し、アフリカの口頭伝承や日本文化とのつながりにも着目し、その魅力をお伝えします。その後、特別展示館に移動し、「うたが生まれる心の小道」という展示の説明と、「あなたも吟遊詩人」という詩作体験コーナーでのワークショップをおこないます。

※講演時間内で講義と特別展示場の見学をおこないます(要会員証もしくは特別展示観覧券)。オンライン配信は講義の時間のみとなります。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/554tomo/>

東京

第138回

魔女とハロウィンのはじまり

講師:河西 瑛里子(民博助教)

日時:10月27日(日)13:30~15:00(開場13:00)

会場:モンベル渋谷店5階サロン(定員50名)

協賛:株式会社モンベル

※オンライン配信はございません。

10月の渋谷といえば、ハロウィン! ハロウィンの仮装といえば、魔女! でも、そんなハロウィンのルーツと進化、気になりませんか? そしてコスプレではなく、魔女と名乗って現代を生活している人たちに、心惹かれませんか? 子どものころ、魔女になりたかった方、仮装してみたかった方も、そこまでではなかった方もぜひ……。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/138tokyo/>

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



八月二日(金)
富山県滑川
市ノ熊看板
ヲ見テみん
ぱくニ熊が
出ルノ?ト
勘違イシマ
シタ。

■第549回 ■2024年6月1日(土)

「みんぱく創設50周年記念企画展「水俣病を伝える」関連」

企画展「水俣病を伝える」の舞台裏

——フィールドワーク展示の試み

平井京之介(民博教授)

本講演会では、みんぱく創設五〇周年記念企画展「水俣病を伝える」の関連事業として、この企画展の趣旨と見どころを紹介しました。本展は、熊本県水俣・芦北地域で現在おこなわれている、水俣病の歴史や被害者の苦しみ、公害の経験をかきたちまづくりなどを伝える活動を紹介するものです。講演会はず、「水俣病を伝える」活動に私が関心をもった経緯を紹介し、水俣病という公害問題のあらましについて概説しました。続いて、私が主な調査対象にしている水俣病センター相思社というNGOの活動と、そこで実施したフィールドワークの様子を写真を使って紹介しました。そのうえで、「水俣病を伝える」活動とそれに取り組む人びとを紹介するという展示の趣旨と、現地での私のフィールドワークを追体験する「フィールドワーク展示」という展示コンセプトについて説明しました。講演会の後半は、企画展示場に移動し、各セクションごとに展示の見どころを紹介しま



企画展「水俣病を伝える」展示場入口 提供・平井京之介

した。最後の質疑応答では、「水俣病を伝える意味」や「展示制作者の視点」について質問をいただきました。本企画展の趣旨を十分に理解するために、講演会終了後に改めてご自身で解説パネルを読み、インタビュ映像を観ていただきたいとお願ひして、講演会を終えました。終了後に、「水俣に行きたくなくな」と声をかけてくださる方があり、私のいいたいことが伝わったと感じています。

■第550回 ■2024年7月6日(土)

人類にとって宗教とはなにか

竹沢尚一郎(民博名誉教授)

講演は、宗教とともに発展した人類の歴史を明らかにすることを目的としました。宗教は主として行為と思想からなりますが、宗教思想はきわめて複雑であり多様です。宗教行為に焦点を絞るその変遷を跡づけることを方法としました。

二重に脆弱さを抱えた人類の先祖にとつて、大規模な集団を形成することが生存のための必須条件でした。この意味で、人間が集団共同体をつくつたのではなく、共同体が人類の発展を可能にしたのです。この共同体のあり方は宗教の原初形態となり、人間は今日にいたるまで祝祭のかたちで宗教の基本形態を反復していたと考えられます。

狩猟採集は約一八〇万年前のホモ・エレクトゥスとともに始まり、農業の開始が一万一〇〇〇年前でしかかないことを考えるなら、人類の歴史の大半は狩猟採集民でした。この段階で宗教は、共同性を祝福する祝祭、



博多の夏祭である博多祇園山笠 提供・竹沢尚一郎

生物学的存在としての幼児を社会的存在としての成人男女に変えるイニシエーション儀礼、シャーマニズムの三つの基本要素を備えていました。その後、農業の開始とともに、先行儀礼と遡及儀礼とからなる儀礼の体系が加わり、その祭祀者ないし祭祀王は自然をコントロール可能な存在とみなされました。やがて古代文明が乾燥地を流れる大河の流域に誕生しましたが、その宗教は農耕民のそれとおなじ構造をもっていました。

その後、西暦紀元前五〇〇年から〇年までのあいだに、仏教とキリスト教のいわゆる世界宗教が誕生し(儒教は宗教というより政治哲学と考えています)、数百年前に宗教改革が生じて、今日につづいています。

本紙掲載の情報は、2024年8月20日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報

ホームページ
https://www.minpaku.ac.jp/Facebook
https://www.facebook.com/MINPAKU.official/

国立民族学博物館友の会 最新情報

ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/Facebook
https://www.facebook.com/minpakutomo/